令和７年度 第１回　見附市まちづくり総合審議会　議事概要

Ⅰ．開催日時　　令和７年５月 28 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

Ⅱ．開催場所　　見附市役所４階　大会議室

Ⅲ．出席委員　渡邉　誠介委員、原山　義史委員、星野　和孝委員、大坪　重雄委員、
徳橋　功委員、小林　正和委員、日山　健一委員、木澤　宇弘委員、
重信　元子委員、鈴木　孝子委員、若林　千映子委員、佐藤　宏子委員、
本間　唯莉委員、神　友里委員、岡山　せい子委員、平山　義孝委員
（出席者 16 名/委員 18 名）

Ⅳ．会議の概要

１．開会

２．会議の成立

【事務局】

出欠報告委員の過半数が出席していることから、見附市総合計画審議会条例第６条第２項の規定により会議が成立していることを報告する。

３．市長あいさつ

「第５次見附市総合計画」が令和７年度に終了することから、新たなまちづくりの指針となる「第６次見附市総合計画」策定に向けた作業を進めている。その１つとして「みらいを語るふれあい懇談会」をスタートした。第１回は若者の未来をテーマに２１名の参加があり、５年、10 年先の見附市がより良くなるために自分ができること、地域や行政に期待することについて語り合っていただいた。今後も開催を予定しているので皆様にも是非参加いただきたい。

これまでの見附は、住んでいるだけで健やかに暮らせるまちスマートウエルネスみつけの実現を目指し、市民一人ひとりの健康を重視した持続可能なまちづくりに取り組んできた。健康寿命の延伸や医療費の削減など、全国的にも注目される成果が着実に表れてきている。一方で、急速に進む人口減少や高齢化など取り巻く環境は大きく変化してきている。もう一度、時代の変化を的確にとらえた柔軟かつ果敢な対応が求められている。

次期総合計画の策定に当たっては、これまでの施策の検証、見直しをしっかりと進めながらも見附市の現状を改めて分析し、市民の皆様の声や新たな課題やニーズを踏まえた市の中長期的な方向性を示していく必要があると考えている。

大切なキーワードは未来だと思っている。時代や実情に合った見直しを進め、５年、10 年先の未来を見据えた持続可能で希望が持てる将来計画をお示しできたらと考えている。

本日は各分野で活躍されている幅広い世代の方にお集まりいただいている。次期総合計画が未来を見据えたより良い計画となるよう、それぞれの立場からご審議いただきたいと考えているため、どうかよろしくお願いしたい。

４．委員紹介

【事務局】

各委員から１名ずつ自己紹介。事務局から欠席委員を報告。

５．会長、副会長選任

【事務局】

会長は、見附市総合計画審議会条例第５条第２項の規定により、委員の互選により選出することになっている。まちづくりについて専門的な見識をお持ちである、長岡造形大学教授の渡邉委員にお願いしたいと思う。

（拍手多数により承認。）

【事務局】

副会長については同条例の規定により会長が任命することになっている。

【渡邉会長】

見附商工会副会長の原山委員を任命する。

６．会長あいさつ

人口学の中で日本がこれまでの人口が、戦争の時以外に停滞もしくは減少したときというのが縄文後期、平安時代と江戸の中期と言われている。その時というのは、産業が飽和してこれ以上伸びない時代だった。ただそのときに火焔土器を作るような人が生まれたり、仮名文字をつかう女性がでてきたり、江戸時代では歌舞伎や浮世絵をやっているような人たちが、ご飯を食べられるようになった。現在の人口減少の時代というのも、恐らく産業構造で言えば飽和しているけれど、そこで活躍できる人が潜在的にいて、多分今までとは違う暮らし方が生まれつつある時代なのかと思っている。

私の予想では、例えば、今まで家庭に縛り付けられていた女性とか、勉強だけすればよいと言われていた若者たちが違う生き方を実現できるようなまちを用意することがよいのではと思っている。従来のオリンピックでは行われなかった競技がだんだんと行われるようになってきている。そういうものを出来るようなまち、今までになかったものでも何か見つけ楽しくできそうだというような観点が今回の計画づくりに少しでも生かせれば子育て世代や若い人たちにもより一層、拡大、生産的なものになるのかと思っている。今年度は長丁場になるがご審議の方をお願いしたい。

７．諮問

（同条例第２条に基づき、市長から諮問書を渡邉会長へ）

その後、市長退席

８．議事

【 会 長 】

議事に移ります。「第６次見附市総合計画の策定方針について」事務局に説明を求めます。

【 事 務 局 】

（別紙１）について説明。質疑応答へ

【岡山委員】

見附市の年齢別人口について、2023 年度と 2040 年度の推計上、こどもの割合はあまり減っていない。働き世代が少なくなっている。高齢者になっていく方々が元気でいるということがすごく重要だと感じた。

自然動態と社会動態について詳しく説明してほしい。

【事務局】

自然動態は生まれてくる方の数とお亡くなりになる方の数の差し引きになる。社会動態は見附に転入してくる方の数と、転出していく方の数の差し引きなる。

【岡山委員】

人口減少が進む中、財政もより厳しくなっていくと思うがやっていけるのか。

【事務局】

人口が減ると税収が減るだけでなく、例えば、お店がなくなったり、公共交通も利用者が減ることによる減便等、色々な面で影響が出てくると思われる。見附市に限らず、全国どこでも人口減少の悩みを持っており、工夫を凝らしながら生活の満足度を保っていく取組みを行政だけでなく市民の皆さんとも一緒にしていく必要があると思っている。

人口減少問題を諦めるのではなく、ずっと住み続けてくれる人や移り住んでくれる人を増やしていき、人口減少を少しでも緩やかにしていくような取組みを進めることによって、魅力的で満足のいくようなまちを一緒になって作っていきたい、そんな計画づくりを行いたいと考えている。

【鈴木委員】

市内には 11 のコミュニティがあるが、共通の課題は役員のなり手不足。学生を含む若い世代にどう参加してもらうか、認知してもらうかがカギ。誰もが活躍できる、参加できるまちになってほしい。

【事務局】

事務局としても同じ意識でいる。

【本間委員】
　若者と女性がカギ。子育てを始める女性にとって魅力的な子育て支援をしているまちというのは大切ではないかと思う。他市よりも優位なものになっているか。
【事務局】
　子育て支援は見附市でも力を入れているところではあるが、全国のどの自治体も力をいれているため、ずば抜けて優れているとは言えないが、見附市では企業との連携した環境づくりに取り組んでいる。こういったところに取り組んでいる自治体はまだ少ない。

【本間委員】
　市民アンケートで「住み良い」「どちらかというと住み良い」と回答した人の割合について、40代が一番低い理由はなにか。
【事務局】
　分析ができていない。情報収集していきたい。

【神委員】
　人口減少が進む中で、見附市が理想とする人数や最低限の人数などの数値はあるか。
【事務局】
　見附市の目標として人口ビジョンがあるが、想定以上に人口減少が進んでいるため、今回の第６次総合計画策定にあたって見直しを行う。また示し方も、今までは１つの指標しかなかったが、条件によって異なる指標をいくつか表す形を検討している。次回の審議会で素案をお示しする予定。

【神委員】
　見附市は住みやすく、近隣に働く場所もある。市内で働く場所を確保していくことは必要なのか。
【事務局】
　確かに、近隣自治体への通いやすさ、通勤のしやすさも見附の魅力であると考える。加えて、市内にも働きやすい職場が増えることは市の更なる魅力向上にもつながるものと認識している。

【星野委員】
　見附市の年間出生率が県内 20 市と比較して良かったと説明があったが、出生数しか記載されていない。合計特殊出生率は 2.0 を超えなければ人口の維持が出来ないが現状の数値はいくつか。
【事務局】
　令和 5 年度の状況では見附市の合計特殊出生率は 1.33。参考に新潟県は 1.23、国は 1.20 という状況である。

９．報告

【会長】

「みらいを語るふれあい懇談会について」事務局より説明を求めます。

【事務局】

（別紙 2）について説明。

【渡邉会長】

全体を通じて質問、ご意見はありますか。

【佐藤委員】

上新田地区で大凧合戦を契機に 2 名の移住者があったと聞いている。（情報提供）
見附市にとって当たり前の事が、移住者にとって刺さるポイントにもなるのではないか。

１０．閉会

【事務局】

次回会議は、7 月 14 日（月）14 時からを予定。資料について改めてご案内する。

以上